



1. 格付結果

企業名	富士通エフ・アイ・ピー株式会社
格付の種類	情報セキュリティ格付
格付 ID コード	10000260214C1607
格付スコープ	九州データセンター(*) (*)システム運用管理業務 (システム環境構築、運用管理・運用監視等)
格付対象	九州データセンター
想定リスク	情報漏えい
格付符号	AA⁺is (ダブル A プラス)
格付の方向性	ポジティブ
有効期間	2016年10月14日から2017年10月13日まで (交付日から1年間)

●お問い合わせ先 **株式会社アイ・エス・レーティング** 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 1-10-23 第 20ビル 8 階

TEL:03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されてはいません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じうる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2016 I.S.Rating All rights reserved.

2. 当該格付符号とした事由

富士通エフ・アイ・ピー株式会社（以下、FIP 社）は、富士通株式会社の 100%出資子会社であり、システムインテグレーションサービス、Web サービス、アウトソーシングサービスの 3 つのサービスを 3 本の柱とし、顧客のビジネスニーズに最適化されたソリューション提供を事業内容としている。

富士通グループの理念・指針である「FUJITSU Way」に基づき、FIP 社としての独自の情報セキュリティガバナンス体制を構築し、社内規程の整備ならびに遵守状況の確認等の推進活動を通じ情報セキュリティ強化を図っている。アウトソーシングサービスを提供している本部（以下、本部）においては、事業の特性上、高い水準の情報セキュリティ対策が要求されることから、情報セキュリティへの取組みを品質向上活動の一環として位置付け、ISO9001、ISO/IEC27001、ISO/IEC20000 の 3 つのマネジメントシステムを、1 つの統合されたマネジメントシステム (IMS : Integrated Management System) として構築しており、その外部認証機関である JQA でのマネジメントの統合の程度を示すランク付けにて、最高ランクであるプレミアムステージを 2014 年 9 月に取得する等、情報セキュリティの強化を積極的に推進している。

九州データセンターは、九州ウォーターフロント開発区/シーサイドももち（百道）に 2004 年 1 月に設立されたデータセンターであり、高度な運用ノウハウに基づいたサービスを提供している。

同センターにおける重要情報資産としては、運用を受託している基幹システム、サーバ類およびデータ保存媒体に格納されている顧客システムの諸情報、ならびにこれらのシステムから出力される各種帳票等が主なものである。

情報セキュリティへの取組みは、富士通グループ共通・全社共通の取組みに加え、本部指導のもとで同センターにおけるマネジメントシステムを構築し運用を行っているほか、ISO 審査や委託元による立ち入り検査の受審、相互監査等を通じて物理的セキュリティを始めとした各種対策が進められており、積極的に情報セキュリティ対策の強化を実施している。2010 年 10 月には、情報セキュリティ格付を取得し、本年度は 6 回目の更新審査を実施した。

マネジメント成熟度の観点から見れば、全社を統制するマネジメントレビュー会議をはじめ、現場レベルの品質向上の底上げを目的とした「スマート FIP 活動」という専門組織が設けられる

●お問い合わせ先 **株式会社アイ・エス・レーティング** 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 1-10-23 第 20 ビル 8 階

TEL:03-3273-8830 <http://www.israting.com>

情報セキュリティ格付は、被格付組織等から入手した情報に依拠して形成した当社の意見であり、その正確性、完全性、網羅性等は必ずしも保証されていません。格付事由書、格付レポート等は、原則として被格付組織または被格付組織の格付けを要請した者からの依頼に基づき有償で作成されたものであり、被開示者、閲覧者等には参考情報としてご提供されるものです。格付事由書および格付レポート等は、被格付組織の事業やサービス、被格付組織との取引や情報共有等を推奨するものではありません。当社は、情報セキュリティ格付に関するクレーム、訴訟その他の紛争、被格付組織その他の第三者に関して生じうる一切の損害、損失、費用等について責任を負うものではありません。なお、情報セキュリティ格付に関する一切の著作権その他の知的財産権、営業秘密、ノウハウその他の権利・利益は当社に留保され、当社に専属的に帰属するものとします。

Copyright (C) 2016 I.S.Rating All rights reserved.

など、当社のセンター全体で情報セキュリティの取組みを推進する体制が構築されている。また、それに加え、当社の中四国のデータセンターとの連携により、情報セキュリティの取組みの強化を図っている。内部監査、外部監査での改善指摘については、自己評価を行い、「セキュリティ改善（強化計画書）」で計画的に改善活動が図られており、PDCA サイクルが確立していると言える。また、従業員一人一人の情報セキュリティに関する意識づけを「情報セキュリティハンドブック」の配布や「六箇条の御誓文」を復唱するなどの活動、標的型メールの脅威に関する訓練などを通して、高いレベルで管理されていることを確認した。

セキュリティ対策の強度の観点から見れば、データセンター内のセキュリティレベルに応じた認証方式による入退管理、マシンルーム内では死角を考慮した数多くの監視カメラの設置、データ保存媒体等の持出は金属探知機や DR タグによる持出防止策などが実装されている。また、入退管理におけるアラート情報から監視カメラの映像をチェックしたり、抜き打ちでの持ち物チェックの回数を増やすなど、情報漏えいのリスクを軽減させるために、更に強化されていることを確認した。

総じて、マネジメント成熟度では、新たな脅威に迅速に対応しており、高水準の管理状態を維持・発展させている。また、セキュリティ対策強度では、悪意ある外部者・内部者に対する管理策が極めて高いレベルで講じられていると言える。

以上